

片葉の葦 守るろう

上町台地の崖下に位置する大阪
市西成区天下茶屋東2丁目の一角
に、葦から一方にだけ葉が生える
「片葉の葦」が一面に自生してい
る。ユニークな形状で、空海や親
鸞など歴史上の人物にまつわる伝
説やあらゆる民話が全国各地に残
っていることから、大阪でも後世
に伝えようと近く有志が保存の会
を発足させたい考えだ。

上町台地崖下に自生

種の保存を訴えているのは、地元
の天下茶屋尋常小(現・天下茶屋小)
出身で、阿倍野区在住の大島新一郎
さん(84)。大島さんは昨年9月、ろ
地域防災に関連して近隣の井戸につ
いて調べていたところ、同地にヨシ
(アシ)の群生地を発見。また、同

全国に民話、伝説 有志が保存会設立へ

時期に見つけた母校発行の伝記「天
下茶屋のうつりかわり」(1961
年)に「ナニハのカタハアシ」と記
された項目を見つけ、湧き水があっ
たことで50年間生き延びてこられた
のではないかと仮説を立てている。

ヨシは湿地帯に生えるイネ科の多
年草で、秋にはススキに似た穂を張
る。「天下茶屋のー」には、古代、
上町台地は海岸に近かったことから
「ふきつける風で…、しまいにはは
えてくる葉がみんなカタハになっ
ていました」と記されている。また、
大阪市立自然史博物館の担当者によ
ると、種としては存在せず「変異の
ものではないか。たまに交じること
はあるが、群生しているのは聞いた
ことがない」としている。

関連する逸話は、全国各地に残る。
修行中の空海が葦笛で誘った美しい娘
に姿を変えた魔物の化身を追い払っ
たというものや、神社に参詣した親
鸞が念仏を唱えたところ、境内一面
の葦が一夜で片葉になったという伝
説などがあり、遠州(静岡)塩原(栃
木)越後(新潟)の七不思議にも数
えられているようだ。府内でも、大
正期に阿倍王子神社(同区阿倍野元
町)へ国学者の生田南水が送ったと
される手紙に片葉の葦について触れ
られているという資料も残っている
という。

自生する現場は約480平方メートルの
国有地の一部で、売り地であること
から近いうちに整備され、消滅する
危惧がある。大島さんは「こんな植
物が大阪にあるんだということを知
ってもらいたい」と話しており、地
元の小学校や公園、博物館などで栽
培されることを希望している。



標本を手に「片葉の葦」を紹介する大島さん。後方は
上町台地の崖下にある群生地